

## 感作性

種別	号番号	CAS番号	物質名	日本産業衛生学会 (気道感作性分類)	ACGIH	EUリスク警句	感作性クラス	分類根拠
第一種	34	4098-71-9	3-イソシアナトメチル-3,5,5-トリメチルシクロヘキシル=イソシアネート			R42	1	ヒトで感作性が報告されており(CERIハザードデータ集(2000)、ACGIH(2001))、ALGY学会(2004)で呼吸器感作性物質としてリストアップしていることに基づき、クラス1とし
第一種	59	107-15-3	エチレンジアミン	2		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	85	111-30-8	グルタルアルデヒド	1	SEN	R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	87		-クロム及び三価クロム化合物	2			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、クロムおよびクロム化合物(Crとして)、当該物質自体ないしその化合物を示すが、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけではない。Patty(1999)に「クロムめっき後、作業員の喘息」、「硫酸クロム暴露後の急性喘息」の記述がある。
第一種	88		-六価クロム化合物	2			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、クロムおよびクロム化合物(Crとして)、当該物質自体ないしその化合物を示すが、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけ
第一種	88	1333-82-0	クロム酸(無水)			R42	1	ヒトへの健康影響の記述、無水クロム酸のフュームの吸入による気管支喘息が報告されている(IRAC(1990))。
第一種	132		-コバルト及びその化合物	1			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、コバルトおよびコバルト化合物(Coとして)、当該物質自体ないしその化合物を示すが、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけではない。
第一種	132	7440-48-4	コバルト及びその化合物			R42	1	Patty(1999)に「著しい気管支反応」の記述がある。
第一種	132	7646-79-9	塩化コバルト(Ⅱ)			R42	1	Patty(1999)に「即時型喘息様反応」の記述がある。
第一種	258	100-97-0	1,3,5,7-テトラアザトリシクロ[3,3,1,1(3,7)]デカン(別名ヘキサメチレンテ			R42	1	DFGOT(1993)の疫学事例報告にて、「喘息様症状」等がみられている。
第一種	265	11070-44-3	テトラヒドロメチル無水フタル酸	1		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	298	26471-62-5	トリレンジイソシアネート	1	SEN	R42	1	トルエンジイソシアネート類は、日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	303	3173-72-6	1,5-ナフタレンジイル=ジイソシアネート			R42	1	IUCLID(2000)に気管支誘発試験の結果、NDIによって喘息がみられたとの記述がある。
第一種	308	7440-02-0	ニッケル	2			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、ニッケル、当該物質自体ないしその化合物を示すが、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけではない。Patty(1999)に「ニッケル作業員の喘息」の記述がある。
第一種	309		-ニッケル化合物	2			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、ニッケル、当該物質自体ないしその化合物を示すが、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけではない。
第一種	309	7786-81-4	硫酸ニッケル			R42	1	Patty(1999)に「フュームが気管支反応を誘発する」の記述がある。
第一種	341	110-85-0	ピペラジン	2		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質

種別	号番号	CAS番号	物質名	日本産業衛生学会 (気道感作性分類)	ACGIH	EUリスク警句	感作性クラス	分類根拠
第一種	391	822-06-0	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	1		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	394	-	ベリリウム及びその化合物	1			1	日本産業衛生学会気道感作性物質、ベリリウムおよびベリリウム化合物(Beとして)、感作性に関与するすべての物質が同定されているわけではない。ベリリウム化合物で、気管の症状として鼻咽頭炎等がみられたとの報告がある
第一種	395	7727-54-0	ペルオキシ二硫酸アンモニウム			R42	1	NICNAS (2001)、SIDS (2005)にヒトで吸入暴露により喘息症状が誘発されたとの症例報告があり、呼吸器感作性陽性と結論づけている。
第一種	395	7727-21-1	ペルオキシ二硫酸カリウム			R42	1	NICNAS (2001)、SIDS (2005)にヒトで吸入暴露により喘息症状が誘発されたとの症例報告があり、呼吸器感作性陽性と結論づけている。
第一種	401	552-30-7	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸 1,2-無水	1		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	411	50-00-0	ホルムアルデヒド	2	SEN		1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	413	85-44-9	無水フタル酸	1	SEN	R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	414	108-31-6	無水マレイン酸	2	SEN	R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	420	80-62-6	メタクリル酸メチル	2	SEN		1	日本産業衛生学会気道感作性物質
第一種	448	101-68-8	メチレンビス(4, 1-フェニレン)=ジイソシアネート	1		R42	1	日本産業衛生学会気道感作性物質